



バラの花かご

陽気な春をイメージして、可憐なピンクのミニバラをベースにした花かごをつくってみました。ほら、花たちの楽しいおしゃべりが聞こえてきませんか。

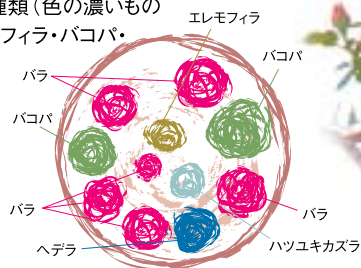
【花材】 ピンクのミニバラ2種類（色の濃いものと薄いもの）・エレモフィラ・バコバ・

ハツユキカズラ・ヘデラ・ミズゴケ

【容器】 ワイヤーバスケット

【飾り】 ツル・人形

【用土】 市販培養土・赤玉土（小粒）・緩効性肥料



培養土8:赤玉土2の割合に緩効性肥料を少々加える。水はけをよくするため、赤玉はふるいにかけて、微塵になったものを抜いておく。



保水力を高めるため、黒ビニール（中央に100円玉くらいの穴をあけたもの）を敷き、動かないようにピンチで容器に留める。



土を半分入れて、花の根元のカビや枯葉を除去しながら植える位置を決める。容器の吊り金具に注意する。



容器の中に敷かれている、やしマットとビニールに3センチほど切り込みを入れ、そこからヘデラを出すように植える。



容器の中央から残りの花を植えていく。土を入れるときは花にかぶらないように、左手も添えて丁寧に。縁に花を植えるときにビニールを土の中へ入れ込む。



水をやったとき、表面の土がこぼれないように、手で棒状に巻いたミズゴケで容器の周囲をしっかりと固める。土の表面にも薄くミズゴケを敷く。

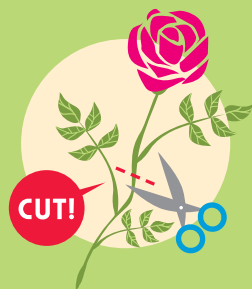
ワンポイントアドバイス

こまめな手入れで、コンパクトで美しい花かごを楽しもう

バラは一つの花が終わったら5枚葉を1枚つけて、すぐ上で切り戻しをします。そうすると枝がむやみに広がらず、長い間コンパクトで美しい花かごが楽しめます。

アブラムシがつきやすいので、見かけたら手にとるか水で洗い流した後、薬剤を散布するとい

いでしょう。早期発見、早期防除を心がけましょう。下葉が黄色くなったら、液体肥料をやりましょう。バラの色はお好みで。全体に濃淡をつけるときれいです。



作者からひとこと



■作者
寄せ植え華道協会師範

尾関 純子 さん
(各務原市)

寄せ植え華道に携わる前も、趣味として花を楽しんできました。たいへんな事でも「楽しくやれば楽しくできる」がモットー。花を通した人とのふれあいがとても楽しみです。一番好きな花はチューリップ。

花を通して
心のふれあいを